



『春の香をもとめて』

標 点

アンテナを高く

県教育庁財務課長

遠 藤 圭 一



俳句ブームだと言われている。きつかけは私も見たことがあるテレビ番組らしい。そこでは、芸能人が作った句を先生が鋭く批評、手直しして瞬く間に視聴者が驚くような素晴らしい句に変えていく。助詞が一つ変わったり、言葉の順序が入れ替わったりするだけで句のイメージががらりと変わることもあり面白い。

俳句は、17文字という非常に短い言葉で作者の思いを読む人に伝えなければならない。制限された様式の中で、自分の考えや感情の微妙なニュアンスを他人に伝えるためには、言葉の選択はとても重要であり、そのための言葉のストックも必要だ。普段の生活の中にも言葉はあふれているが、多くの言葉は右から左へ通り過ぎていく。素晴らしい句を詠む人たちは、常にアンテナを高くして、出会った言葉の中から創作に役立つようなものを拾い上げる努力を続けているのであろう。

翻って、私たちはどれだけアンテナを高くすることができているだろうか。現代社会において、テクノロジーや経済、人口、環境、衛生など様々な分野で大きな変化は絶えず起こって

おり、私たちはそれを身近なところでも実感することが出来る。例えば、ICTの普及は、遠く離れた人と人とお互いの映像を見ながら同時にやりとりすることを可能にし、コロナ禍は今もなお多くの人の日常生活に制限を強いている。そして、大事なのは、こうした変化がもたらす影響が確実に子どもたちにも及んでいるということだ。子どもたちの学びの環境を整えるため、幅広く情報を収集し、社会の変化に柔軟に対応することが私たちには求められている。そのためには、日頃からアンテナを高くしておくことはとても重要なことだ。

子どもたちが大人になったとき、これまでなかった新たな技術や価値観により、社会の様子は今とは変わっているだろう。子どもたちには、そうした変化に決して臆することなく、困難に直面したとしても、自ら考え、克服していくことのできる人になってほしい。そのためには今、子どもたちに必要なものは何なのか。日頃からアンテナを高くして、子どもたちにとって最適な学びの環境が実現するために必要なものを見極める努力を惜しまないようにしたい。